

## 講習会・勉強会活動報告

テーマ：「脳画像から診る予後予測とリハビリテーションプログラムの立案」

講師：千里リハビリテーション病院

副院長 吉尾 雅春 先生

日時：平成 23 年 6 月 4 日 13:00～18:30

内容：1. 理論講義

2. 症例検討

参加人数：約 160 名 (Dr PT OT ST Ns PO )



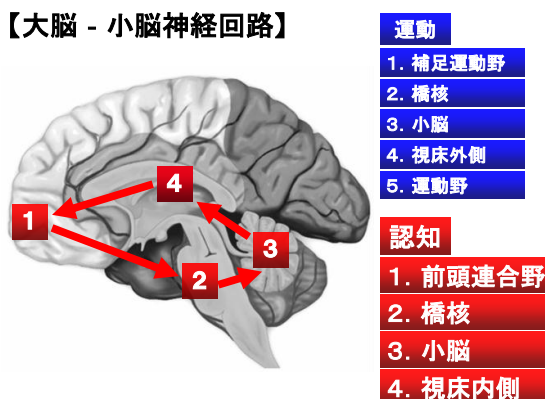
Schmahmann らは小脳性認知情動症候群 CCAS (cerebellar cognitive affective syndrome) を提唱しており、小脳に関わる障害では、高次脳機能障害が出現することがわかっています。

大脳小脳ループの障害が疑われれば、入院時から身体面のみならず、認知面にもチーム全体で関わっていくことが重要であると教わりました



まず、ブロードマンの基本的な脳の機能局在のご説明から始まり、部位(皮質)だけの問題ではなく、前後左右上下にわたる神経連絡網の理解が重要であると教わりました。また、運動ループと認知ループを理解した上で、統合的にアプローチしていく必要性を感じました。

### 【大脳 - 小脳神経回路】



最近では、拡散テンソル画像 (diffusion tensor image, DTI) など脳の連絡繊維を画像化できるようになり、画像解析は日々進歩しております。脳画像においてどの部分が障害され、どのような症状が出現するかということを推測し、予後予測を立てるということの重要性を学びました。

皮質脊髄路が残存していることを見抜き、ゴールを低く設定せずアプローチを展開していこうと思います。最後に、吉尾先生には長時間にわたりご講演いただきましてありがとうございました。

(文責 副センター長 西野 琢也)